



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 227
February
2012

トピックス

メンバー国との防災協力推進

インドネシアにおける
地方行政官防災能力強化プログラム

国際会議への参加

国連宇宙空間平和利用
委員会 (COPUOS) 科学技術
小委員会

ADRC客員研究員 レポート

¶ ムニール・チャウド
リー

¶ ダンガル・ラムシュ
ワー

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2012

●メンバー国との防災協力推進 インドネシアにおける防災担当行政官研修

2012年1月27日から29日にかけて、アジア防災センター (ADRC) はインドネシアのジャカルタにおいて、防災担当行政官を対象とした研修を実施しました。これは2008年からADRCがアセアン各国で実施している防災対応能力強化事業の一部です。本研修ではインドネシア国家防災庁 (BNPB) と協力し、同庁の職員20名を対象に、講師育成研修 (TOT) を実施しました。

本TOTは地方研修での講師育成を目指しており、プログラムは災害からの復興、コミュニティの意識啓発のありかたなど、災害リスク管理に関する講義と、より効果的な研修手法の習得から構成されます。研修手法の習得のセッションにおいては、各自の専門分野に関して発表を行い、議論や評価を通じて理解を深め、研修技術の向上を確認することができました。3日間という短期間ではあったものの、参加者は活発に議論を交わし、夜遅くまで発表準備を行うなど、充実した研修となりました。

今後、インドネシア各地で地方行政官・コミュニティを対象とした研修が予定されておりますが、その際には今回受講した職員らが講師役を務めることとなります。受講者の今後の活躍が期待されます。最後になりますが、本研修の実施にあたりご協力くださいましたBNPB、関係者の皆様に厚くお礼申しあげます。



●国際会議への参加 国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会及び UNSPIDER 地域支援事務所 (RSO) 会合 (ウィーン)

ウィーン (オーストリア) において開催された国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会第49会期及びこれに併せて開かれた第3回UNSPIDER RSO (地域支援事務所) 会合にADRCが参加しました。

2月6日および7日の2日間で開かれたUNSPIDER RSO会合では、世界各地の地域支援事務所より30名以上が集まりました。会議では、以下のサブテーマで積極的な議論が行われました。

- ① 2011年の活動報告
- ② 2012-2013年の活動計画
- ③ 活動協力についての議論 (アジア、アフリカ、中南米の各ワーク

続き

セッション)

- ④ 知識ポータルとナレッジマネジメント
- ⑤ 既存の機会活用

地域支援事務所(RSO) 会合では、RSOとしてのADRCの2011年における活動実績及び2012年の活動予定について発表し、事務局及び他のRSOとの意見交換を行いました。

●ADRC客員研究員レポート

ムニール・チャウドリー (バングラデシュ)

はじめまして。私はバングラデシュから来ましたムニール・チャウドリーと申します。私は2008年4月からバングラデシュの食糧防災省の防災救援課で次官補として働いています。

母国での私のキャリアとしましては、まずダッカ大学経営大学院においてMBAを取得しました。そして、イングランドのバーミンガム大学において開発に関する修士号を取得し、アメリカにおいても同様の課程を取得しました。

私の現職における職務は、防災に関する政策や計画の検討と実行、災害リスク軽減に関するガイドラインの策定、そして災害時における救援物資の供給や、セーフティネットのプログラムに携わる業務を行っています。また、他機関と連携した災害リスク軽減 (DRR) 活動の担当も担っています。

皆様もご存じの通り、バングラデシュは世界的にみても、自然災害が毎年多く発生している地域です。特に海岸地域においては、洪水やサイクロン、暴風雨が頻繁に直撃し、同地域は災害に対して脆弱であるため、そこに住む住民の方々は多くの被害を受けています。これらの状況から、より良い社会の構築のためには、自然災害のリスクを軽減することを検討することが必要だといえます。特に、生活復興支援に関するセーフティネットにつきましては、バングラデシュ政府は非常に重要視していて、災害後の復興及び復旧のための社会構築プログラムのための支援制度の確立が必要だと考えています。日本で実践されている、短期・中期・長期を含んだ復興プログラム活動は、バングラデシュにおけるDRR実現のための、知識の向上に良い影響を及ぼすことになると思います。



ダンガル・ラムシュワー (ネパール)

はじめまして。私はネパールから来ましたダンガル・ラムシュワーと申します。ネパールでは自治省の防災課で課長として業務を行っています。私が所属する自治省は、ネパールにおいて防災を担当する主要な機関となっています。また、関連機関である防災担当部署や国家緊急オペレーションセンター等を通じて、主にその責務を果たしています。まず、防災担当部署は防災業務における国家および国際業務を通じて、主に防災に関する政策や計画の策定を行っています。この部署において、私は政策や計画の立案に関する活動等に活発に参加し、国内外の会議、ワークショップ、セミナーやトレーニングの運営や出席も行っています。

さて、ネパールはその地理的特徴から、近隣諸国と比較しても最も災害が多発する国の一つです。ネパールでは、地滑りや洪水、火災、落雷、寒波などが頻繁に発生し、毎年平均300人の人命が奪われ、官民間問わず多くの財産が失われています。また、ネパールは地震被害について

続き

も大きな課題となっています。一方で、無秩序無計画な都市開発により、都市型災害のリスクが増大しています。包括的な防災へのアプローチ、絶え間ない緊急管理システムの開発、災害リスク軽減の活動の優先度あげること、同分野での国際協力の促進などが急務であるといえます。

ADRCの客員研究員プログラムは、防災の研究を実践するための大変素晴らしい機会です。最後に、このような素晴らしい機会をいただいた日本政府に感謝を申し上げ、合わせてネパールの自治省においてもお礼を申し上げたいと思います。

**問い合わせ・配信申し込み**

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。